

湯沢CS通信

令和7年5月21日 第81号
(発行) 湯沢市教育委員会
学校教育課 CS担当

令和七年度がスタートして一ヶ月あまりが過ぎました。学校はいよいよ本格的に動き始め、子どもたちも元気に学校生活を送っていることと思います。

湯沢市では、市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定して六年目に入りました。これまで各校では学校や地域の課題解決に向け、「学校と地域が連携・協働して、何ができるか」という視点で協議が進められてきました。今年度も校長先生が作成した「CS基本構想」と「CS実施計画書」のもと、「地域とともにある学校づくり」を目指していただきたいと思います。各校から提出していただきました「令和六年度CS評価書」をもとに、昨年度の成果と課題を次のように捉えました。



〈成果〉

- 学校の課題解決に向けた協議（熟議）が行われている。
- 地域人材の活用により、学習活動が充実している。
- 児童生徒の地域行事等の参加が増え、地域住民との関わりが増えている。

〈課題〉

- 保護者や地域住民に対して、CSの周知が十分にできていない。

なぜ、熟議が有効なのか？

- 保護者や地域住民の声を学校に届けることが難しいと考える委員が多い。
- 自治組織や地域の団体、町内会等との連携が必要である。

「地域に開かれた学校」から

「地域とともにある学校」へ

昨年度、CSの取組の成果として、「学校の課題解決に向けた協議（熟議）が行われている」とありました。熟議に期待される効果とは

I 相互理解 様々な立場の人が当事者意識をもち、互いの意見を尊重し、理解を深める。

II 課題の共有 学校の抱えている課題についての認識が共有され、課題解決を目指していくことができる。

III 自己肯定感 少人数のグループの中で自分の思いを語り、思いを共感し、高い満足感が得られる。

IV 役割の明確化 自分は何ができるのかを考え、自らの役割を認識するようになる。

多くの当事者（学校運営協議会委員、教員、保護者、地域住民、児童・生徒等）が参加する熟議は、目指す子ども像の共通理解、学校や地域の課題解決策を検討する場として、たいへん有効です。

今年度、CSを担当します伊藤秀樹です。よろしく願います。各校の「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、CSの一層の推進に努めていきたいと考えています。御協力お願いします。

令和7年度 湯沢市コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進計画

学校教育課

目標

未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校のみならず地域住民や保護者も含め市民一人一人が教育の当事者となり、地域総掛かりでの教育の実現を図る。

「地域とともにある学校づくり」を進め、学校と保護者、地域住民が一体となって子どもたちの健やかな成長を支援する。

CS 導入で期待される効果

子育てに関わる学校、家庭、地域の役割分担が明確になり、それぞれの立場で子どもたちの健やかな成長を支援するようになる。

具体的には

子ども・家庭

- ・多様な地域住民との活動で体験活動が充実する。
- ・多様な人的交流のおかげで人間関係が広がり、地域の中で子どもたちが育てられているという安心感をもつ。
- ・コミュニケーション能力が向上する。
- ・子どもが地域の担い手としての自覚をもつ。
- ・子どもの地域貢献や地域活動が促進できる。

学 校

- ・子どもと向き合える時間が確保できる。
- ・地域の力を生かして教育の質を上げる。
- ・学校の課題や現状を理解してもらえる。
- ・地域資源を生かした特色ある学びができる。
- ・安定した学校運営と地域との協働体制の維持・継続ができる。
- ・地域の協力を得て学校を核とした教育の仕組みができる。

地 域

- ・住民や保護者が教育の当事者となり、幅広く教育活動へ参加できる。
- ・多様な層の地域住民や団体が教育活動に参画することで、地域が一層活性化する。
- ・知識や経験を生かしたボランティア活動を通じた生きがいづくりが広がる。
- ・地域全体の協力意識が深まり、人と人とのつながりが生まれて、子どもたちから元気や幸福感をもらえる。

CS の充実に向けた具体的取組

◎ CS の周知を図る（特に保護者・地域住民に対して）。

- ・ CS とは、学校(教職員)、保護者、地域住民が同じ方向を向いて、協働で子どもを育てる体制。
- ・ 学校運営協議会とは、学校(地域)の課題解決策を話し合ったり、成果を確認したりする組織。

◎ CS において PDCA サイクルを機能させる。

- ① 校長が学校運営協議会で学校の課題を確認する。
- ② 学校運営協議会で解決策を協議(熟議)する。
- ③ 課題解決策を提案する。
- ④ 成果を確認する。

◎ 「熟議」を推進する。

多くの当事者（教員、保護者、地域住民）が参加して行う熟議が有効！

◎ CS と地域学校協働活動を一体的に推進する。

地域学校協働活動推進員の協力を得ながら

◎ 学校運営協議会委員の主体的な活動を推進する。

委員がプロジェクトチームを作るなど